

3Sで現場を快適に

新日本刷毛ブラシ 若手交流会開催



自身の体験と共に「夢」を語った佐川社長

新日本刷毛ブラシ商業協同組合(末松大幸理事長)の「第13回若手交流会」が、8月20日午後7時から大阪市中央区道頓堀の道頓堀ホテルで開か

れた。今回はサンワ・リノテックの佐川博敏社長が「夢を語る」のテーマで講演した。講演に先立ち末松理事長があいさつし「第1回

の若手交流会で佐川社長がアスベストについて話をされ、口火をきっていただきました。今度、日本刷毛工業協同組合と合流するので当組合で最後の若手交流会となります。人生は誰に出会うかで決まります。難しい時代を切り開くのも人と人とのかけわり合いです。今後人材育成に力を入れていきたいと述べた。講演「夢を語る」のパート1は「3S活動で現場を快適により安全に」だった。

3Sとは、整理・整頓・清掃による会社の改善。同社は2年間にわたり3S活動を続けて成果を上げていく。大阪市西区・大正区の4社の企業グループで活動を行っている。毎月第3土曜日に各社持ち回りで発表会を行っている。現場見学し、各社の感想を述べ、フィードバックを行う。

慌てなくなった、動きやすくなって無駄がなくなった(スペース)、不良在庫がなくなった―などが挙げられる。

入大学で開かれた国際会議「Stone2008」に出席。街並み・建造物の保存修復を第一とするヨーロッパの現況を体験した。歴史文化遺産のアウシュビッツ、アンコールワット、インドなど約60の世界遺産を訪問している(今年8月現在911が登録)。

同社の社長は「おもしろおかしく、人に笑顔を」。小集団活動をワイワイガヤガヤの和やかな雰囲気で行い、社内が活性化された。

「夢を語る」パート2は「ピロシマからイースター島、アウシュビッツへ―文化財保存をライフワークに」のテーマだった。

佐川社長はスイス外資系の会社に入社。特殊工ボキシ樹脂で文化財保存を経験。10年前に、社業の合間を縫ってイースター島のモアイ像の保存修復に参加した。以来、日本各地の埋蔵文化財の保存に参加し貢献している。

3S活動の成果として、定位置に置くようになったので見栄えがよくなった、見つけるのが早くなった、お客が来ても

ポーランド・トルンのニコラウス コベルニク

佐川社長の生涯の使命(ミッション)は、確固とした信念を持ち、いつも前向きに行動し、自分にかかわるすべての人(社員、お客、仕入先、家族、お隣)と対話を通じてともに喜び・笑い、ともに感動し、毎日自分自身の心をときめかすことを継続することであるという。